

長岡市教育センターだより

5・6月の研修講座の様子



「校内研修の活性化～知識・技能を活用する授業づくり～」5月24日(火)
講師:日本女子大学 吉崎 静夫 教授



「新学習指導要領における評価の在り方」6月2日(木)
講師:国政研 工藤 文三 初等中等教育研究部長



「学級集団を『育てる』」6月10日(金)
講師:上越教育大学教職大学院 赤坂 真二 准教授



「『学校力』の向上と教頭の役割」6月15日(水)
講師:筑波大学附属大塚特別支援学校 安部 博志 支援部長



自ら求めて学び続ける研修を

長岡市教育センター運営副委員長 杉山 淳一

よい学級とは、「信頼できる先生がいて、授業がわかり、互いに教え合う姿がよく見られ、一人一人の発言や考えが大切にされている」学級である。これは、県教育委員会が実施した、児童生徒の意識調査のまとめの一部です。長岡市の「熱中！感動！夢づくり教育」の三本柱の一つも、「どの子にもわかる授業の実現」です。

では、このようなわかる授業を創るため、目の前にいる子どもたちに育てたい力は何でしょうか。そのための、指導者としての自分自身の課題は何でしょうか。

教師が、この自己課題を明確にして、解決に向けて自ら求めて学ぶ研修を続けることが、日々の授業の充実・改善を生み出します。教師が自己課題に正対し、自ら考え解決するという

学びの経験を重ねることが、自ら学ぶ子どもを育てます。

自分の成長の度合いや立場で、当然自己課題も変わりますが、常に自分の指導を省みながら、求めて学び、成長し続けることは、教師としての責務です。

教育センターは、自ら求める研修を支援し、共に学び、共に成長する教職員を育てることを運営方針としています。そして、多様な学校現場の要望や教育の今日的課題等に応えるべく、研修内容の充実と実施方法の工夫に努めながら、様々な研修事業を行っています。

求めて学び続ける研修の場として大いに活用し、わかる授業を実現するための、プロとしての高い専門性と指導力を磨いていきましょう。

教育センター運営委員会

運営委員会は、センターの事業を様々な側面から検討評価し、改善していくための組織です。17名の委員を2年間の任期で委嘱し、年3回の会議を行います。

今年度は、任期2年目として以下の皆さんにお願いしています。

(※は、今年度より任期の委員)

◎星野 和人	校長	脇野町小	○杉山 淳一	校長	上川西小
小池 尚子	教頭	川崎東小	加納 博志	教頭	宮内中
※池田 弘	教頭	西谷小	※内藤 貴志	主幹教諭	阪之上小
笠原 道宏	教諭	表町小	石坂美和子	教諭	希望が丘小
木村 健司	教諭	寺泊小	中村 佳美	教諭	栖吉中
佐藤 優一	教諭	大島中	小岸 志保	教諭	南中
池田 誠	教諭	川口中	※佐藤 文乃	教諭	養護
北原 千秋	養護教諭	浜海小	※今泉八一子	主査	東中
平石 邦子	栄養教諭	越路小	◎運営委員長	○運営副委員長	

要請研修

要請研修は、各校の課題解決や教師の指導力の向上を直接支援する事業です。

教科の研修では、授業改善に向けて「どんな単元をつくるのか、どんな言語活動が有効なのか。」などを検討したり授業後に授業者と協議し明日からの授業に生かせるアイデアを考えたりしています。



教育相談・特別支援の研修では、各校の実態や個別の事例に合わせて、より良い支援を学校とともに考えていくようにしています。

個別の指導計画作成演習



要請は随時受け付けています。また、学年部や教科部の研修にも応じます。どうぞ活用してください。

研修講座

5月10日の「スクールオフィス活用Ⅱ～保健管理～」から今年度の講座が始まりました。



5月27日の「作成して学ぶ個別の指導計画」では、上越教育大学の笠原芳隆准教授を講師に迎え、25名が受講しました。

「実際に個別の指導計画を作成する過程で子どもの課題が明確になり、支援方法が見えてきた。自校でも今回学んだ作成方法を取り入れたい。」という声がありました。

5月31日の「教育研究論文のポイント」では、昨年度優秀論文執筆者の阪之上小学校佐藤昌弘教諭から実践提案をしていただきました。65名の受講があり、今年度の教育研究論文執筆者の意気込みが感じられました。「論文の書き方が具体的に分かった。研究テーマから成果や課題まで一貫性をもたせることや、子どもの変容・授業の変容の重要性を学んだ。意欲が湧いてきた。」と大変好評でした。



追加申込みを受け付けている講座がまだたくさんあります。事業案内や研修案内を見て是非申し込んでください。

ミドルリーダー養成研修

学校・地域のリーダーとして活躍する教員を育てることを目的とした研修事業です。本年度は、下記のとおり第5期4名と第6期3名の計7名が、自らの問題意識と課題に即して設定した主題を基に2年間の研修に取り組んでいます。研修成果は、実践研究集録にまとめて公開するとともに、教育センターの講座や研修会等で提案・発表します。

第5期研修員(平成22～23年度)

阿部 共博	大島中	社 会
長 和俊	青葉台中	理 科
野尻 裕子	浦瀬小	特別支援
籠宅さや子	寺泊小	特別支援

第6期研修員(平成23～24年度)

佐藤 直子	阪之上小	国 語
松澤 俊輔	旭岡中	英 語
中村 晋二	信条小	情報・視聴覚



研究授業(阪之上小)

教員サポート錬成塾

今年度研修生
ベーシック 36名
クリエイティブ 31名



全体会後のグループ研修



5月18日(水)のベーシックコース開講式で、南中学校の柴野浩輔教諭が「子どもたちを喜ばせるために頑張りたい。」と36名の研修生を代表して決意を述べました。

錬成塾は、開設9年目となりました。研修生がこの錬成塾で1年間の研修を終えたとき、自分の成長を実感できる充実した研修になるように、7名の指導主事が全力でサポートします。

情報・視聴覚教育

教育の情報化に向け、様々な研修講座を開講するとともに学校からの要請研修に応じています。5月には、校務の情報化を推進するため、スクールオフィスのグループウェアや保健管理についての講座を開きました。「これまで使ってきた機能を再確認するとともに、新たな使い方を知り、活用の幅を広げられた。」との受講者の声が聞かれました。6月からはエクセルやパワーポイントなど、教職員のICT活用力の向上を図る講座も始まっています。

要請研修では、各学校を訪問して、各種ソフトウェア・電子黒板などの機器の操作や活用方法、学校のニーズに応じた内容について研修を行っています。

また、視聴覚教材の選定も目下、進行中です。



プレゼン・機器活用要請研修
(越路西小)

【お知らせ】

スクールオフィスの掲示板で「研修案内」、「視聴覚PRESS」、「理センBOX」を配信しています。研修講座の持ち物等についても、回覧板で連絡しています。校務用パソコンを毎日必ず開いて、確認してください。

教育相談

毎日のように新しい相談者が相談室のドアをノックします。「一人でも多くの笑顔が見たい。」その思いで相談業務にあたっています。

相談内容の多くは、学校での不適応です。相談者の声に耳を傾けながら、今後の対応について一緒に考えていきます。

また、必要に応じて、医療機関・フレンドリールーム・通級指導教室等、外部機関との連携も積極的に進めています。

夏季休業中も、相談を受け付けています。子どもが授業を休まずに来所できる期間です。教育相談を必要としている方がいましたら、教育相談室を紹介してください。



WISC-IV・DN-CAS 検査機器

理科教育

子どもの学力向上に向け、「授業づくりのサポート」に取り組んでいます。実際に生物に触れたり、楽しくものづくりを行ったりしながら、理科の面白さや探究することの楽しさを伝えていきます。研修講座を充実させ、その様子をホームページで紹介し、いろいろな情報を発信しています。

また、科学研究を通して子どもの個性と能力を伸ばせるように取り組んでいます。

研修会の様子



小3：チョウを育てよう



小4：電気の働き



小5：メダカの飼育と観察

○小中学生科学研究奨励事業

- ・電話相談会… 7月25日,26日,28日
- ・相談教室… 8月10日,11日,12日



走査型卓上電子顕微鏡が使用できます。教材開発や子どもの科学研究にも活用してください。
(写真はアリの脚部)

調査・研究(研究協力員制度)

調査・研究のために、下記の研究協力員を委嘱しました。教員の資質・指導力の向上と、子どもの成長に寄与できる研究テーマを設定し、取り組んでいます。また、協力員自身の資質・指導力の向上も目指します。

国語

●研究テーマ

「論理的思考力を育む説明的文章の授業」

論理的に考え、表現することができる力は、グローバルな世界に生きるこれからの子どもに、最も必要とされる力です。「その力を国語科の学習で育むには、どのような授業を行ったらよいのか。」教材文から論理構造を学び、それを生かして新たに読んだり書いたりする読み書き関連単元の開発などを中心に研究し、提案します。

相澤 勇弥(川崎小) 齋藤 伸夫(希望が丘小)
太田 敦子(青葉台小) 歌代 温子(和島小)

英語・外国語活動

●研究テーマ

「小学校外国語活動から中学校外国語への円滑な接続を図る指導」

小学校で外国語活動を経験した生徒に対する指導をどうするかが、中学校英語教員の喫緊の課題です。小学校で活用した「英語ノート」を中学校の指導にどのように関連付けるかを、小学校と中学校の研究員が協力して、関連単元の指導計画、指導案、教材を研究し、提案します。

吉田 精子(川崎小) 明道乃里子(脇野町小)
吉澤 優(南中) 野口 裕太(越路中)

社会

●副読本の改訂,地図の改訂

●活用の手引作成

より使いやすく分かりやすい副読本を目指します。改訂作業に向けた取材・調査や原稿執筆を通して、研究協力員自身の力量を高め、社会科の授業づくりを提案します。

峰村 出穂(四郎丸小) 丸山慎之輔(千手小)
児玉 秀児(富曾亀小) 大原 有喜(大島小)
小林 和弘(中之島中央小) 保坂 国馨(脇野町小)



理科教育

●授業改善への具体的な方策を提案

●小中学生科学研究奨励事業

分かる授業づくりのため、研修講座の内容に関して、研究協力員が授業実践を行います。子どもの変容を研究し、講座の有効性を検証し発表します。また、子どもの科学研究を支援します。

須玉 研一(宮内小) 関谷 忠宏(川崎東小)
岸 亮(東谷小) 早川 紀子(川口小)
本間 祐史(北中) 真柄 秋成(東北中)
阿部 光宏(寺泊中) 細貝 卓矢(与板中)

情報・視聴覚

●視聴覚教材の検討 ●研修講座への協力

これまでの利用状況や利用者の要望、学習指導要領への対応などを考慮して、現有の視聴覚教材を検討するとともに、新規購入教材の選定に当たります。

情報・視聴覚教育に関する研修講座では、実践提案や操作指導を行うとともに、研究協力員自身のICT活用指導力の向上に努めます。

長谷川幸一(十日町小) 小林 要(才津小)
原 和幸(希望が丘小) 相馬 宏司(与板中)

長岡市教育センター

長岡市視聴覚センター

長岡地域理科教育センター

〒940-1151 新潟県長岡市三和2丁目8番20号

TEL 0258-32-3716(代表) FAX 0258-32-3719

E-mail : center@kome100.ne.jp URL : http://www.kome100.ne.jp/nkcenter/